

令和7年度資料調査員会議 議事録

司会：新津副館長兼学芸部長

記録：文献史料課 黒岩

日時：令和7年5月29日（木） 13：30～15：00（15：30）

場所：県立歴史館会議室

議事内容については、次第および進行要領の通り進行した。

1 開会（司会：新津部長）

- ・諏訪の三上調査員、安曇野市の逸見調査員、大北の荒井調査員、下高井郡・中野市の館林調査員、上水内郡の中村調査員、下水内郡・飯山市の丑山調査員の6名を新たに迎え、新たな体制で今年度もよろしくお願いしたい。

2 特別館長、館長あいさつ

笹本特別館長

- ・アメリカのハーバード大学、日本の学術会議の問題等、いま学問の世界が脅かされている。今年度新たに迎えた6名の皆さんをはじめ、考古学を専門とする方も多くみられ、これが本来の歴史館のすがたのように思われる。いまのこのような状況のなかでは、自分の場合は文書が基本であり、足元の史料に目を向けることが大事になってくるのではないかと思う。
- ・県史の現代編も始まるので、これからは近代以降にも目を向けてほしい。

小松館長

- ・県内の史資料の情報をいただき、歴史館の運営に生かしていきたい。
- ・昨年度の企画展は、4,600名の来館者に増えた。今年度の活動も活気あるものにしていきたい。

3 文化振興課文化財・県史編さん担当課長、長野県史編さん準備会構成員あいさつ

田中課長

- ・30年ぶりに県史が編纂される。編纂の基本姿勢は「長野県に関わる人々の第二次世界大戦後の多様な歩みとその特色を、県民参加による幅広い資料の調査・収集や市町村及び関係諸機関との連携を通じて、多面的多角的に明らかにし、歴史を後世の幅広い世代に語り伝える。」（別紙1）であり、キチンと史料を調査・収集していきたいのでご協力願いたい。

伊藤構成員

- ・長野県史現代編編さんの3つの柱は、1つ目は資料をきちんと調査・収集すること、2つ目は10年という期間で「資料編」「通史編」「特別編」「読本・普及版」の4本立てで行きたい。3つ目は県史を編さんするだけでなく、その後の資料の保存・活用もしっかりやっていきたい。

3 出席者自己紹介および話題提供

※話題提供の主なもの

- ・佐久穂町栄橋（S.12建設）が国登録有形文化財となり、近現代の資料にも目を向けていきたいと考えるようになった。

- ・小諸城関連の古文書はかなり整理されてきているが、明治以降の資料も多く、今後資料整理を進めていきたい。
- ・小諸藩藩校の明倫堂の額が、徴古館に寄贈された。
- ・「小諸義塾の産学連携」、「御影用水と御影陣屋跡」、「風穴と糸のまち小諸」などのテーマに取り組むさまざまな団体が調査活動等を行っている。
- ・令和元年に開館した上田市公文書館は、寄贈が年々増加してきている。
- ・寄贈史料のなかに『解体新書』が見つかった。
- ・寄贈された「丸子劇場」の史料について、さっそく閲覧の希望があった。
- ・大昔調査会では、昨年、地方史の金字塔と称えられる『諏訪市第一巻』が大正 13 年に刊行されてから 100 年となったのを機に、当時の史資料がどの程度残っているのかを確認した。また、関連 6 市町村が合同で地域の歴史を調査研究することは大変だが、それを行う意義は大きい。
- ・伊那・高遠・長谷合併 20 年を機に、新しい伊那市史の刊行を進めている。また、箕輪町でも新しい町史をつくる話が出てきている。
- ・飯田市歴史研究所では、満州移民についての史料を読む会を実施し、一般市民も発表等をしながら関わっている。
- ・飯田歴史研究所は、公文書館的機能の充実を図っていきたい。
- ・木曽福島の福島関所跡の発掘調査が行われ、関所跡の新知見が得られるかもしれない。
- ・上松町では、伊勢神宮の式年遷宮にともなう御神木祭が行われる。
- ・大桑村では、国重要文化財「定勝寺」の耐震工事、さらに境内の五輪塔の調査が行われ、従来の年代より古くなり、中世までさかのぼる可能性が出てきた。また、県立歴史館で大般若経の展示が行われた。
- ・松本市立博物館への古文書の寄贈が増えているが、市内でも古文書の所有が困難になってきている人が多くなってきているのではないかと。市博では、秋に刀剣展も予定している。
- ・安曇野市合併 20 年を機に、市史編さんが進められている。
- ・山口家文書（旧堀金村・大庄屋）12,000 点の史料整理が終了した。
- ・清沢冽文庫のなかから、『暗黒（戦争）日記』等と共に、石橋湛山からの手紙等が見つかった。
- ・国重要文化財中村家住宅の裏屋根剥落、覚音寺の持国天の破損等、重要文化財の被害が相次いだ。
- ・今度、県立歴史館の企画展に大町市山の神遺跡のトロトロ石器、押型文土器等を科し出す予定である。
- ・長野県総合開発計画関連の史料がみつかり、興味深い。
- ・千曲市武水別神社の古文書が古書店に流失し、買い戻した。
- ・治田神社社家（江戸中期）の調査を行った。神事に関わる民具が大量に見つかり、収蔵する場所が課題となっている。
- ・戦後 80 年の今年、満蒙開拓団関連で、南信の阿智村とパートナーシップを結んだ。満蒙開拓団の語り部の高齢化が進んでいる。
- ・市指定有形文化財屋代小学校旧本館の耐震改修工事行う。
- ・千曲市歴史文化財センターは、令和 7 年度から教育委員会から市長部局に移った。また、昨年度から『紀要・年報』を発行している。
- ・旧豊田村との合併 20 周年を迎える。市立博物館の近現代コーナーは、なかなか充実しておらず、収蔵庫を再確認し、「旧豊井村戸長役場文書」を展示した。この展示を通して、「旧豊田村文書」がどこにあるか捜索することが課題であることを認識。収蔵スペースがないことも課題だが、若者も啓蒙して年配者から若者までネットワークを結ぶことが大切である。
- ・長野市公文書館では、月に 2、3 件の寄贈・寄託の申込みがある。寄贈史料については、図書館とも連

携して公開を考えたい。

- ・廃校となった学校の調査を行っているが、百周年等の区切りで史料は処分されているのか、あまり古い史料は残っていない。
- ・小林一茶の史料も、手もとに残すのが難しい状況である。さらに、信濃町にある小林一茶旧宅は、売りに出されている。
- ・飯山市ふるさと館でも、古文書、民具の寄贈が多く、整理が追いついていない。定期的に古文書講座を行っている。受講生が成長し、古文書を理解できるようになって、将来、古文書を整理し目録を作ってくれるようになってほしい。
- ・今年は、7月に小菅神社の国重要民俗無形文化財の柱松柴燈神事が行われる。多くの方々に、飯山を訪れてほしい。

4 議事

(1) 調査員活動について

○村石文献史料課長より資料説明

①報告事項

(別 紙) 資料調査員設置要綱 (2・3 頁) (資料1—1・2) 調査員、座席表 (3・4 頁)
(資料2) 令和6年度 資料調査員報告概要 (6 頁)

- ・コロナも落ち着いてきて、諸団体の活動が増えている。

②依頼事項：調査員活動について

(資料3) 調査員活動について (7 頁)

- ・報告は2か月に1度 (9 頁)、メール添付で「報告書」(資料5)。データでいただくとありがたい。
- ・「所蔵者リスト (秘)」について、新県史編さんにあたって、基礎情報として重要なため、所有者の代替わり、資料の所在で何か変化あれば、更新してほしい。

(資料4) 調査内容について (詳細)

③依頼事項：長野県史編さんに関わる依頼について

- ・県史編さんが始まっているが、戦後の史資料が価値づけされないままに散逸してしまっている。戦後の史料も収集をお願いしたい。

(資料6) 令和6年度 県立歴史館資料調査員報告書

質疑応答

- ・「所蔵者リスト (秘)」について、現在の地域区分は旧地域区分と異なっていて、どの地域まで調査をしてよいのかわからない。 → 隣接する地域の方と話をさせていただいて、自分のできる範囲で調査をしてほしい。
- ・「所蔵者リスト (秘)」は、どのように作成されたのか教えてほしい。 → 30年前の前回の県史作成時に、県史調査員がピックアップされたものが引き継がれている。調査は、いきなりお宅を訪問するような大々的に行う方法ではなく、新しい情報を確認したら報告書に書いて提出するぐらいのスタンスで更新を行ってほしい。

(2) 各地域の話題

○村石文献史料課長よりまとめて

- ・令和6年度調査員報告について (資料6)
- ・流失文書の状況について 参考) 令和6年度収集資料 (10 頁)

- 1 史料が散逸することが、一番の問題である。アーカイブカレッジのなかでも、史料の寄贈が増加していることが話題となった。
- 2 県史編さんの関係で、現代史の史料にも目を向けてほしい。
- 3 広報チラシ（11 頁）を配布している。皆さん方の力をお借りしつつ、地域史料の保存に努めていきたい。

質疑応答

（質問なし）

5 閉会（あいさつ：小松館長）

- ・各地域の状況がよくわかり、それぞれの熱い想いが伝わってきた。今後も、皆さま方と連携を強めていきたい。よろしくお願いいたします。